

「竹田健診センター」についてご説明します。



竹田健診センター センター長
芳賀 靖
はが やすし

きょうは
竹田
健診センター
です



こんにちは
診察室です。

竹田健診センターより

「ぜひいから」ここに診察室
です。のバックナンバーがご覧
いただけます。



はじめて

病気には予防しうるものがあること、また、早期発見により完治しうるものがあり、治療医学と同じくらい、予防医学は大切であると言えます。

2024年より、「日本人間ドック学会」は、「日本人間ドック・予防医学学会」と改名し、日本脳ドック学会では、これまで施設の認定は行ってきていましたが、2024年より、新たに認定医制度を開始し、予防医学により重点を置くようになってきました。通常、病院を受診する場合は、

何かしらの症状を呈し、当該科を受診し、症状に応じて検査をし、診断・治療します。症状がなく、患者さん自身にとって不都合がないければ、病院の外來受診はしないと思われれます。

しかしながら、早期には症状がない疾患も少なからず存在します。がんなどは早期には症状がないことが多いですし、動脈硬化性疾患（虚血性心疾患、脳卒中など）も無症状のまま動脈硬化が進行していきま。症状のない方が自身の健康チェック、病気の早期発見のために有用なのが、健康診

断や人間ドックなどといえると思
います。

脳ドック

脳卒中の多くは発症してしまつと後遺症を残すことが多いと言えます。また、認知症に關しても新たな薬剤など開発されていますが、治療となると完全ではありません。

脳ドックを行うことにより、脳卒中や認知症の危険があるかどうか、また、くも膜下出血の原因となる脳動脈瘤、さらには、脳腫瘍などを同定し、発症前に対処する

ことも可能となります。

具体的には、頭蓋・頸椎X線撮影、MRI、MRA、頸動脈超音波検査などを施行します。加えて、血液検査でわかる脳梗塞・心筋梗塞リスク検査（LOX-index）やMCI（軽度認知障害）スクリーニング検査の導入もしております。

肺ドック

通常の胸部X線検査のみでは肺がんの早期発見も困難であり、このため、肺がんの予後を悪くしています。早期発見により治療率を

高めることができるがんの一つと言えます。

胸部CT検査を行い、肺がん、前がん病変、炎症性病変などを同定し、呼吸器科の専門医につなげることが可能です。

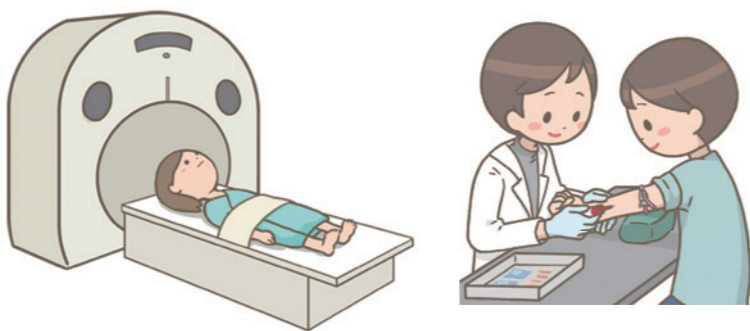
PET（陽電子放射断層撮影）健診

がんなどの悪性腫瘍の発見、ま

た、病変の悪性度の予測などに寄与しています。メリットとしては、CTやMRIは区域ごとの撮影で全身を同時に撮影することが困難ですが、PETは、全身を一度に撮影できます。デメリットとしては、早期のがんや小さな病変では同定が困難なこと、悪性腫瘍以外（炎症など）でも陽性に写る場合もあります。

すい臓ドック

これまでも健康診断や人間ドックなどで、腹部超音波検査や血液検査でのアミノノインデックス（各種がんのリスク検査）やプロトキー検査（すい臓がんリスク検査）などのマーカーによるリスク検査などは実施してきましたが、MRI検査を加え、より精度を上げた検査の実施を今後予定しています。



おわりに

2023年度の竹田健診センターで実施した健康診断・人間ドックの要医療・要精査対象者は、全体の21.0%でしたが、二次健診を当院で受けた方は、そのうちの23.2%でした。他院の受診も含めると要医療・要精査対

象者の3割程度の受診に留まっていると予測されます。

健康診断や人間ドックはスクリーニング検査、つまり、間口を広げて広く浅く検査を実施しています。

それ故、発症前の病気の早期発見の一助とはなりますが、さらに深く追求・精査する必要も多々あります。また、病気が発見されても症状がないため受診せず、治療を受けていないケースもありません。病気の疑いや、病気が見つかったら放置し、病気が進行してしまつては意味がありません。

健康診断、人間ドックなどで要医療・要精査の対象となった場合は、是非、病院を受診し、適切に対処してもらうことをお勧めします。

【お問合せ・お申込み】

竹田健診センター
TEL 0242 (29) 9877
※受付時間：9時～12時/13時～16時30分（休診日を除く）

当院のPET-CT